

マスコミ各位

令和8年4月2日（木）
沖縄県保健医療介護部地域保健課 感染症対策班
担 当：喜屋武、岡野
電 話：098-866-2215

麻しん（はしか）患者の発生に伴う 注意喚起について（第一報）

1 報道関係者の方へ

この度、本県で今年1例目の麻しん患者が報告されました。

当該患者は、周囲へ感染させる可能性がある期間に不特定多数の方と接触した可能性
があるため、各医療機関および県民へ注意喚起のため情報提供を行います。

なお、麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされており、現時点にお
いて当該患者が利用した施設等を利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルス
に感染することはありません。

報道関係者の皆様におかれましては、感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係
者について、本人等が特定されることがないように、格段のご配慮をお願いします。

2 患者の情報

【基本情報】中部保健所管内在住。20代、男性。ワクチン接種歴：なし。

【症状】 発熱、皮疹 等

【経過】

3/28（土） 県外より帰沖

3/29（日） 南部保健所管内の医療機関（A）を受診

3/31（火） 南部保健所管内の医療機関（B）を受診

4/1（水） （A）を再受診。

4/2（木） 検査の結果、麻しん遺伝子陽性が判明。

※立ち寄り先については現在調査中。

3 麻しん（はしか）について

麻しんウイルスの感染によって起こります。感染力が強く、飛沫・接触感染に加え、『空
気感染』もあるため、手洗い・マスクのみでは予防できません。重症化することがあり、
先進国においても、約1000人に1人の割合で死亡するといわれています。

また、今年は海外からの輸入症例を含め、全国的に前年を上回るペースで感染者が報告
されています。

主な症状等：感染後、約 10 日間の潜伏期間を経て発症します。38℃前後の発熱、咳、鼻水、めやになど、風邪のような症状（カタル症状）がみられます（カタル期）。発疹出現の 1～3 日前に頬の内側に白い小さな斑点（コプリック斑）がみられ、発熱は 2～4 日続いた後、いったん解熱します。その後、再度発熱し、それとほぼ同時に発疹が出現します（発疹期）。発疹は数日で茶色の色素沈着を残して消失し、解熱します（回復期）。

4. 麻しんかなと思ったら

令和 8 年 4 月下旬頃までに『麻しん（はしか）』が疑われる症状が出た場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また、受診の際は、周囲の方への感染を広げないよう可能な限り公共交通機関の利用を控えるようお願いします。

なお、ワクチンを 2 回打っている方や抗体価がある方、過去に麻しんに罹患したことがある方への感染リスクは低いことが報告されています。

5. 麻しんの予防方法について

定期接種対象者の方へ

麻しんは予防接種で防げる病気であり、予防接種は最も有効な予防方法です。麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）は、『2 回』接種することで十分な免疫を獲得することができ、麻しん（はしか）・風しんを予防することができます。

定期接種対象者（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児）は、予防接種が済んでいるか確認し、未接種の場合は早めに予防接種を受けましょう。

定期接種対象者以外の方へ

ご自身の接種歴が 2 回に満たない場合があります。

『親子（母子）健康手帳』などで履歴を確認し、不明な場合は任意接種をご検討下さい。

6. 麻しん（はしか）発生状況

	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年
沖縄県	0	0	0	0	1	1
全 国※	6	6	28	45	264	139

※令和 8 年 3 月 22 日時点の速報値

7. 参考

厚生労働省「麻疹（はしか）とは」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻疹」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/index.html>